

2023 環境経営レポート

対象期間：2023年4月1日から2024年3月31日

発行日：2024年5月24日



東邦車輛株式会社

目次

1. 対象範囲	P2
1) 登録事業者名	P2
2) 事業の規模	P2
3) 事業内容	P2
4) 対象組織・サイト	P2
2. 環境経営方針	P3
3. 実施体制	P 4
1) 環境保全関係の責任者及び担当者	P 4
2) 組織概要	P 4
3) 活動チームの役割	P 4
4. 環境経営目標	P5
1) 中期環境経営目標	P5
2) 事業年度	P5
3) 環境への負荷実績	P6
5. 環境経営計画	P7
6. 環境経営目標の実績とその評価	P8
7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	P9
1) 取組内容・評価・次年度取組	P9
2) 取組事例	P10
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果と違反訴訟等の有無	P11
1) 環境法令順守状況	P 11
2) 違反訴訟等の有無	P 11
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P12

1. 対象範囲

- 1) 登録事業者： 東邦車輛株式会社
群馬県邑楽郡邑楽町大字赤堀4120番地
- 2) 事業の規模： 従業員 657 名 (2023年4月現在)
工場延べ床面積 37279.1 m² (営業・部品部門は賃貸のため除く)
- 3) 事業内容： 特装自動車（トレーラ・ローリ・ダンプ）の開発・設計・製造・販売・サービス
- 4) 対象組織・サイト：
東邦車輛株式会社

社長室	内部統制部（群馬製作所内）	
事業推進本部	総務部（群馬製作所内） 経理部（群馬製作所内） 企画部（東京事務所内）	
営業本部	東京事務所	神奈川県横浜市鶴見区尻手3丁目2番43号
	北海道支店	北海道札幌市西区二十四軒1条7丁目2番39号新明和(株)内
	帯広出張所	北海道帯広市西四条南1丁目9番地3
	東北支店	宮城県仙台市宮城野区扇町2丁目3番16号
	東北支店（盛岡）	岩手県盛岡市菜園1丁目11番地4号樋下建設ビル5階
	北関東支店	群馬県邑楽郡邑楽町大字赤堀4120
	関東支店	東京都台東区東上野5丁目16番5号新明和(株)上野ビル5階
	静岡出張所	静岡県静岡市駿河区中田3丁目1番地33
	茨城営業所	茨城県土浦市田中3丁目8番32号土浦学園通りビル7階
	信越営業所	新潟県新潟市中央区堀之内南3丁目8番11号
	中部支店	愛知県名古屋市中区大須1丁目7番11号
	金沢営業所	石川県金沢市ニツ屋町8番1号 アーバンユースフル2F
	近畿支店	兵庫県宝塚市新明和町1番2号
	中四国支店(広島)	広島県広島市南区東雲本町2丁目21番26号
	中四国支店(岡山)	岡山県岡山市中区国府市場66番地9
	中四国支店(松山)	愛媛県松山市高岡町85番地1
	九州支店	福岡県福岡市博多区豊1丁目9番43号
	南九州営業所	鹿児島県鹿児島市鴨池新町6番6号 鴨池南国ビル6階
	部品部	仙台部品営業所 宮城県仙台市宮城野区扇町2丁目3番16号 福岡部品営業所 福岡県福岡市博多区東比恵3丁目28番18号 横浜部品営業所 神奈川県横浜市金沢区大川3-1
群馬製作所	設計部	群馬県邑楽郡邑楽町大字赤堀4120番地
	開発部	
	調達部	
	生産部	
	生産管理部	
	品質管理部	



東邦車輛株式会社

環境経営方針

新明和グループの一員として『豊かな生活環境と社会基盤を創る』を実現するために私達は、地球環境問題を人類共通の最重要課題と認識し、「特装自動車」の生産・販売を通してチャンスを得ながら環境にやさしい社会づくりに貢献します。

1. 製品ライフサイクルを通して環境負荷低減に貢献する製品の開発、販売に努めます。
2. 供給者との良好な関係を保ちながらグリーン調達を推進します。
3. 環境関連の法規制および当社が合意した取り決めに遵守します。
4. 資源とエネルギーの有効利用ならびに廃棄物の削減に対する環境経営目標を定め、目標達成のために次の活動を行い、定期的な評価と必要な 是正を行います。
 - a. 電気・燃料・水道使用量の削減
 - b. 人・生態系に有害な化学物質使用量の削減
 - c. 紙資源の有効活用と使用量の削減
 - d. 廃棄物の再資源化率向上
5. 全従業員にこの環境経営方針を含む環境教育を行い、環境への意識と意欲の向上に努めると共に、全員参加で継続的に環境改善活動を行います。

2024年 4月 1日 改定

東邦車輛株式会社

最高責任者

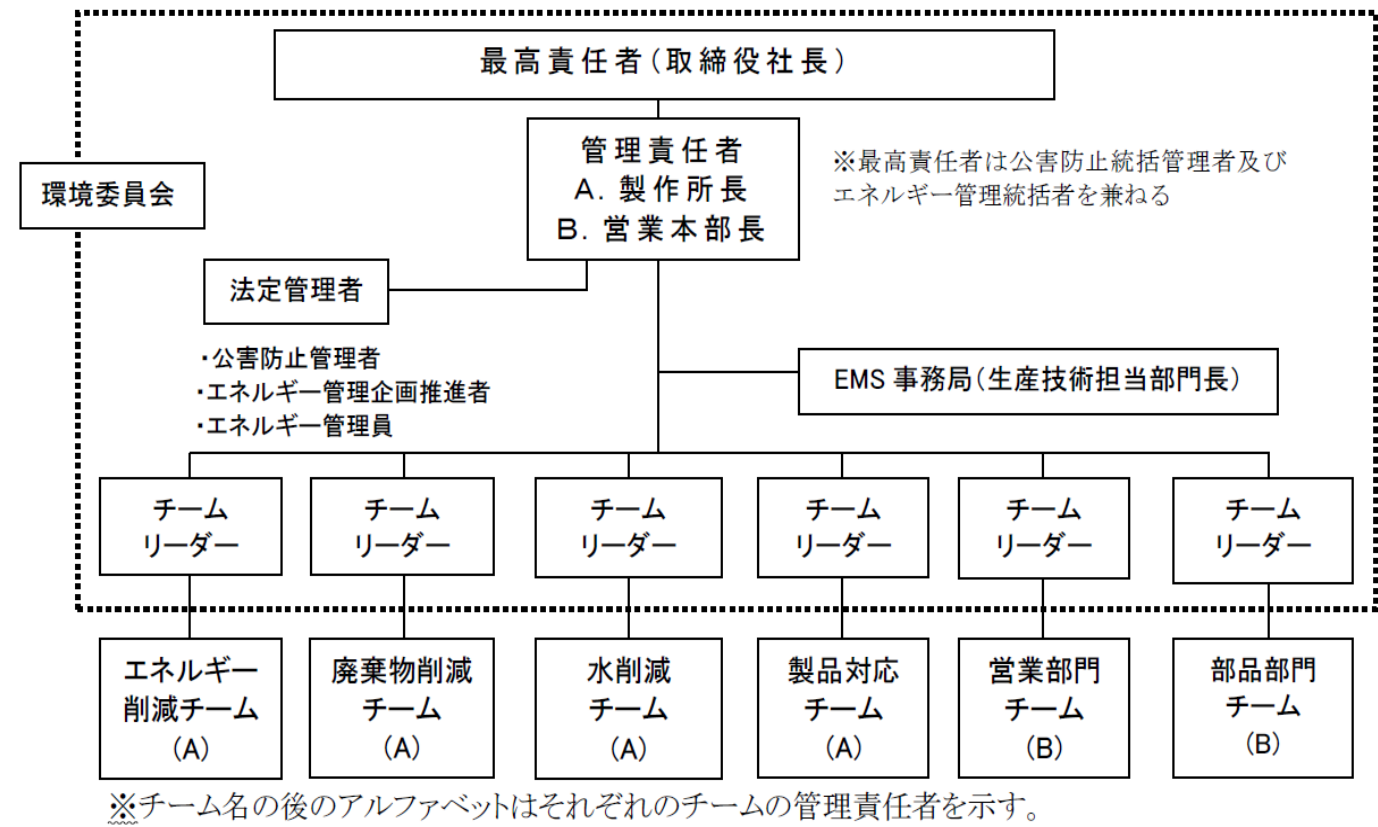
富田政行

3. 実施体制

1) 環境保全関係の責任者及び担当者：

- 最高責任者：取締役社長 富田政行
- 環境管理責任者：群馬製作所長 亀田輝仁 事業推進本部長 大庭洋一
営業本部長 野村晋太郎
- 事務局責任者：生産技術部長 岸正道
- 事務局担当者：生産技術部 高橋慶多
- 連絡先：電話 0276 - 99 - 1012 F A X 0276 - 99 - 1022

2) 組織概要



3) 活動チームの役割

エネルギー削減チーム (群馬製作所)

エネルギーの削減および有効利用に関する具体的な施策の立案・検討を行う。

廃棄物削減チーム (群馬製作所)

紙資源の有効活用と使用量の削減、廃棄ルールの徹底及び廃棄物の再資源化率向上に関する具体的な施策の立案・検討を行う。

水削減チーム (群馬製作所)

水使用量の削減 (総排水量の削減) に関する具体的な施策の立案・検討を行う。

製品対応チーム (群馬製作所)

環境に配慮した製品の開発・改良・生産並びに、環境負荷物質の削減および規制対象物質の対応に関する具体的な施策の立案・検討を行い、グリーン調達を推進する。

営業部門チーム・部品部門チーム

エネルギー、廃棄物、及び水使用量の低減のための啓蒙活動を行う。

4. 環境経営目標

1) 中期環境目標

群馬製作所（原単位＝使用量/工数）		基準実績	目標			
項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
温室効果ガス排出量 削減 ※1, 2	原単位	10,733.8	10,615.5	10,497.2	10,379.0	
	kg-co2	2,234,848.5	2,210,337.8	2,185,827.2	2,161,316.5	
水使用量 削減	原単位	34.6	34.6	34.5	34.4	
	m³	12,287.0	12,266.5	12,245.9	12,225.4	
一般廃棄物排出量 削減	原単位	747.3	734.4	721.5	708.6	
	kg	265,286.0	260,711.1	256,136.3	251,561.4	
産業廃棄物排出量 削減	原単位	1,073.2	1,057.8	1,042.5	1,027.1	
	kg	380,970.0	375,520.8	370,071.7	364,622.5	
化学物質使用量 削減	原単位	151.3	149.8	148.3	146.8	
	kg	53,711.7	53,174.6	52,637.5	52,100.4	
製品の開発・改善による各種削減	件	1	1	1	1	

営業部門（原単位＝使用量/全社売上）		規準実績	目標			
項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
温室効果ガス排出量 削減 ※1	原単位	535.0	534.8	534.6	534.4	
	kg-co2	243,177.8	243,158.6	243,139.4	243,120.2	
水使用量 削減	原単位	12.3	12.3	12.2	12.2	
	m³	2,482.6	2,480.1	2,477.6	2,475.2	

サービス部門[部品部]（原単位＝使用量/部品部売上）		規準実績	目標			
項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
温室効果ガス排出量 削減 ※1	原単位	36.2	35.9	35.9	35.9	
	kg-co2	91,817.9	91,488.4	91,488.4	91,488.4	
水使用量 削減	原単位	0.1	0.1	0.1	0.1	
	m³	238.0	237.8	237.8	237.8	
一般廃棄物排出量 削減	原単位	7.1	7.0	7.0	7.0	
	kg	15,130.0	14,943.2	14,943.2	14,943.2	
産業廃棄物排出量 削減	原単位	3.7	3.7	3.7	3.7	
	kg	7,880.0	7,801.2	7,801.2	7,801.2	

※4

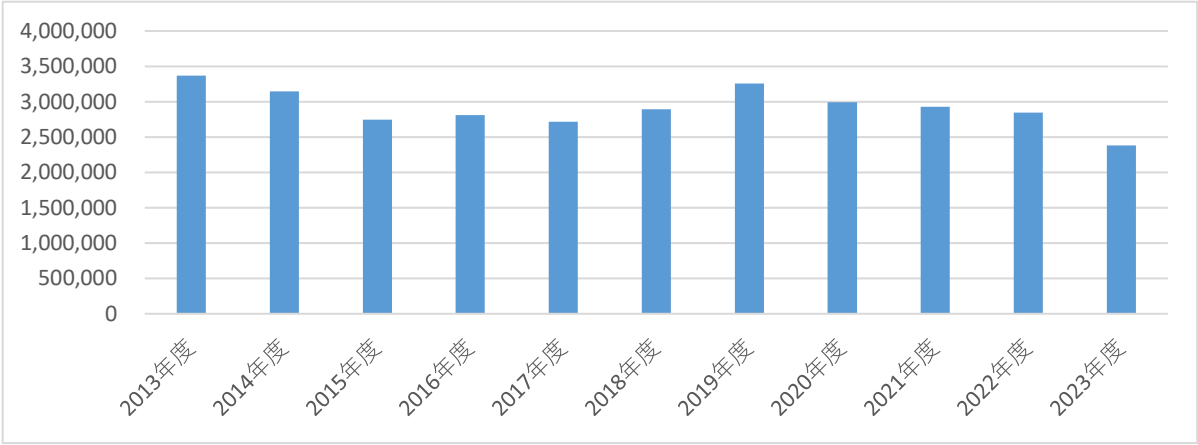
全社		規準実績	目標			
項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
温室効果ガス全社総量 削減	kg-co2	2,569,844	2,544,985	2,520,455	2,495,925	

※1、CO2排出係数：電気事業者別排出係数は2022年実績は0.455(kg／kWh)を使用
※2、軽油については陸送会社使用分は除くため2022年実績と異なる
※3、営業拠点は他社と共用フロアのため他社人数を含めた人数割合で算出している。
また廃棄物については他社管理により計測できないため目標は無しとする。
※4、サービス部門の2024年度以降は移転が伴うため削減目標は2023年度と同一とする

2) 事業年度： 当年4月1日より翌年3月31日

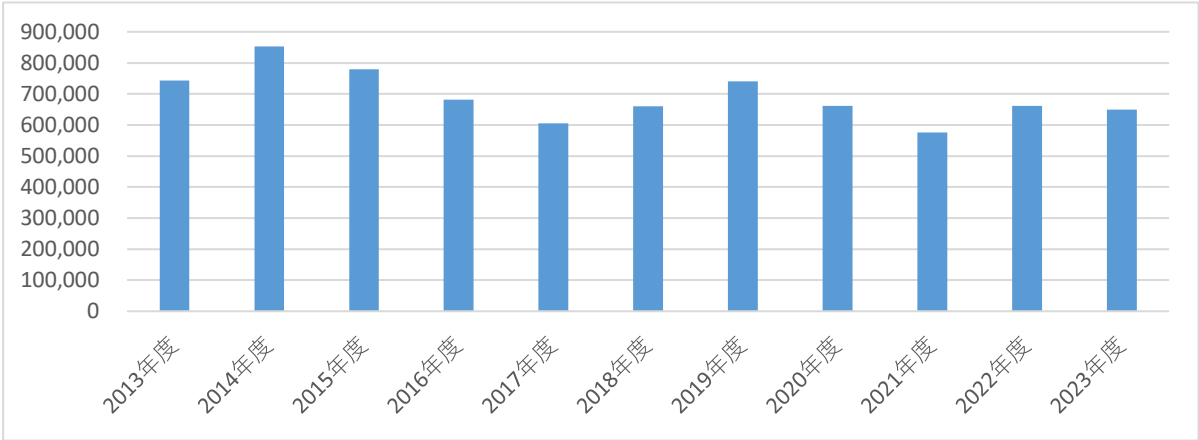
3) 環境への負荷実績

①二酸化炭素排出量 (kg-CO2)



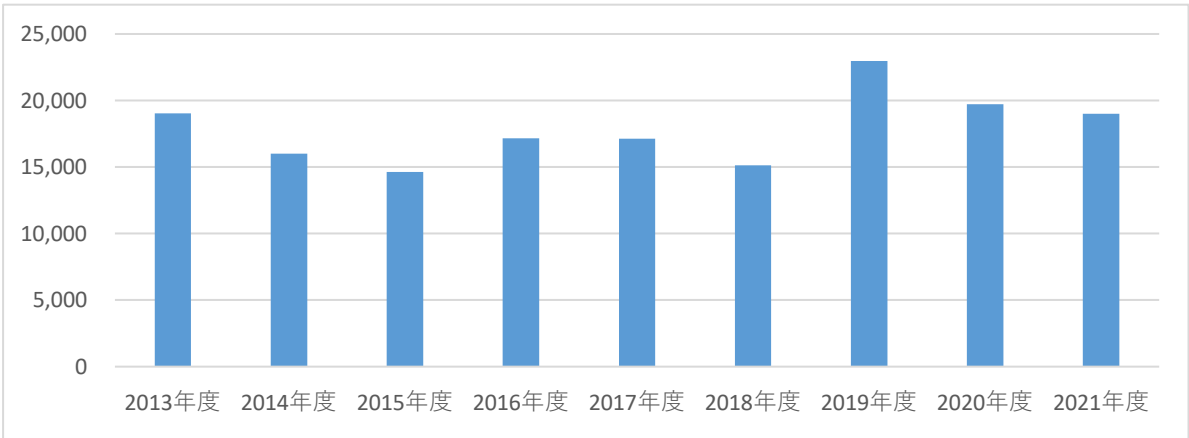
※2019年より営業部門、部品部門のCO2を追加

②廃棄物最終処理量 (kg)



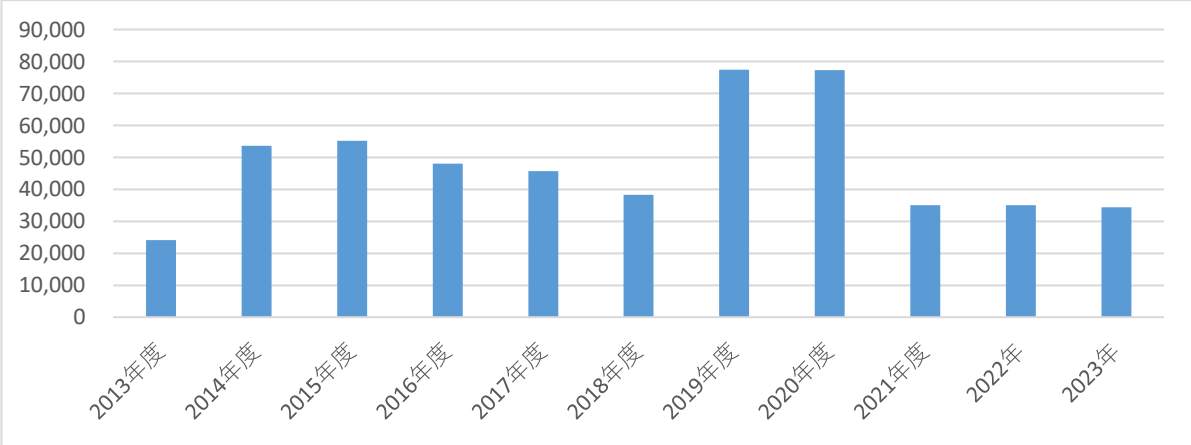
群馬製作所、部品部門のみ

③水使用量 (m³)



※2019年より営業部門、部品部門を追加

④化学物質使用量 (kg)



群馬製作所のみ

5. 環境経営計画

温室効果ガス排出量削減

- ①工場の電力使用量の削減
 - ・自家消費用太陽光発電の検討を継続
 - ・照明LED化の推進を行い電力削減を行う。
- ②構内運搬車等の電動化や牽引車による化石燃料削減の検討
- ③エアー漏れ、ガス漏れなどのパトロールを継続しエネルギー損失を減らす。
- ④エアー漏れが少ない継手に交換し、エアー圧力を少なくしてコンプレッサー運転回数の節約

廃棄物総排出量削減

- ①定常廃棄している加工機用チップを有価物に変更した。
- ②不定期に発生する使用可能タイヤを有価物になるよう調整。
- ③工場内のパトロールによる廃棄物分別強化と定量化（継続）
- ④適正処分の確認の一環及びメンバーの知識向上の為、廃プラ処分場視察

総排水量削減

- ①上水の節水（季節により浴槽の使用停止等コロナの影響で年間使用停止延長中）
- ②工場内配管系統の確認による漏れ防止対策（数値確認による監視）
- ③油水分離槽清掃
- ④オゾン装置導入による水浄化を行い工場用水の排水量削減

グリーン購入による化学物質の使用量の削減

- ①環境負荷物質の削減（P R T R法の理解と負荷物質の削減とグリーン調達の実現）
- ②環境負荷物質フリー宣言機種の拡大模索
- ③輸送効率向上製品の販売、改良

環境配慮設計製品の開発

- ①輸送効率向上 開発の情報を得ながら環境に優しくなるものを導入してもらう活動

営業部門の啓蒙活動と温室効果ガス、排水量等削減

- ①数値管理による活動の定着化
- ②啓蒙活動

部品部門の啓蒙活動及び管理数値設定

- ①数値管理による活動の定着化
- ②啓蒙活動

6. 環境経営目標の実績とその評価

群馬製作所 原単位＝使用量/工数 ○＝達成 X＝未達成

項目	単位	目標値	実績値	判定
温室効果ガス排出量 削減 ※1, 2	原単位	10,615.53	11,207.70	X
	kg-co2	2,210,337.84	2,048,317.51	○
水使用量 削減	原単位	34.55	34.23	○
	m³	12,266.45	11,980.00	○
一般廃棄物排出量 削減	原単位	734.41	752.33	X
	kg	260,711.13	236,781.95	○
産業廃棄物排出量 削減	原単位	1,057.83	1,030.17	○
	kg	375,520.84	360,518.00	○
化学物質使用量 削減	原単位	149.79	146.06	○
	kg	53,174.63	51,115.68	○
製品の開発・改善による各種削減	件	1	1.00	X

営業部門 原単位＝使用量/全社売上

項目	単位	目標値	実績値	判定
温室効果ガス排出量 削減 ※1	原単位	597.72	555.64	○
	kg-co2	243,158.59	238,887.85	○
水使用量 削減	原単位	13.69	12.15	○
	m³	2,480.13	2,302.75	○

サービス部門（部品原単位＝使用量/部品部売上

項目	単位	目標値	実績値	判定
温室効果ガス排出量 削減 ※1	原単位	35.85	35.41	○
	kg-co2	91,488.36	93,577.63	X
水使用量 削減	原単位	0.11	0.11	X
	m³	237.76	258.00	X
一般廃棄物排出量 削減	原単位	7.01	6.90	○
	kg	14,943.15	15,920.00	X
産業廃棄物排出量 削減	原単位	3.66	4.05	X
	kg	7,801.20	9,340.00	X

全社

項目	単位	目標値	実績値	判定
温室効果ガス全社総量 削減	kg-co2	2,544,984.79	2,380,782.99	○

7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

1) 取組内容・評価・次年度取組

チーム	今年度活動項目	評価	次年度活動予定
エネルギー削減	・ エアー、ガス漏れパトロール実施 ・ 電動牽引車の実運用開始 ・ 電動フォーク導入 ・ エアコン省エネ検討	○ ○ ○ ○	継続 ・ 段階的に導入台数を増やす ・ テスト実施後、効果が見込めるため他のエアコンでも検討する
廃棄物削減	・ 木屑削減推進 ・ 工場内ゴミ箱の削減 ・ ゴミ箱パトロールの実施 ・ 電子データでの閲覧推進	○ ○ ○ ○	継続 ・ 分別の徹底を周知する 継続
水削減	・ 油水分離槽の清掃 ・ 水配管の漏れパトロール ・ オゾン装置導入による水削減状況 ・ 漏洩キットパトロール、周知	○ ○ ○ ○	継続
製品対応	・ 化学物質使用量調査 ・ 揮発性有機溶剤の低減 ・ 自社製品開発によるCO2削減調査報	○ ○ ○	継続 ・ 部品移動に伴うエネルギー、廃棄物
営業部門	・ ガソリンの使用量と燃費調査 ・ コピー用紙削減のためのデータ収集 ・ 電気、ガス、水削減の啓蒙	○ △ ○	継続
部品部門	・ 台風の水害に対する対策（水害によ ・ 水の削減（清掃業者対策で径を変 ・ 節電対策の見える化（消すスイッチ ・ 移転計画に伴う廃棄物のルール化と	○ ○ ○ ○	継続

○ = 実施 X = 未実施 △ = 要改善

2) 取組事例

エアコン用省エネ配管の検討
イーエスジーテクノロジーズ製αESGの設置、テストを行った

流体攪拌装置αESG試験設置報告書

【2.設置概要】

設置対象機器



設置室外機:RXYP450DA
設置機種:αESG280

設置工事



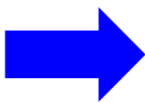
流体攪拌装置αESG試験設置報告書

【3.計測結果】

③ 上記①及び②計測結果より外気温が前後にて2.8℃下向していますので、設置前後の加重平均外気温帯での電力値の比較は以下の通りとなります。

➤ 設置前の平均電力値(11.5℃)	2.20kW	対象日:2023/12/4.5.6.7.8
➤ 設置後の平均電力値(12.1℃)	1.96kW	対象日:2023/12/14.15.16
➤ 削減電力値	0.24kW	
➤ 削減率	10.9%	

流体攪拌装置αESG設置による削減効果は、以下の通りとなります。



集計期間における、流体攪拌装置αESG設置前後の削減率
10.9%と判断ができます。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟等の有無

1) 環境法令順守状況

		厳守状況
No.	法令	評価
1	公害防止組織法	○
2	循環型社会形成推進基本法	○
3	廃棄物処理法	○
4	水質汚濁防止法（2022年3月排水設備更新のため特定施設の変更提出）	○
5	浄化槽法	○
6	騒音規制法	○
7	振動規制法	○
8	P R T R 法	○
9	消防法	○
10	高圧ガス保安法	○
11	労働安全衛生法	○
12	公害犯罪の処罰法	○
13	公害健康被害補償法	○
14	条例（群馬県的生活環境を保全する条例）	○
15	大気汚染防止法	○
16	省エネルギー法（2016年より横浜工場閉鎖に伴い特定事業者からは除外）	○
17	フロン排出・抑制法	○
18	プラスチック資源循環法	○

業界、会社規則		厳守状況
No.	規則	評価
1	車体工業会の環境取り組み活動	○
2	新明和グループ環境保全行動指針	○

2) 違反訴訟等の有無

内容	2020年度	2021年度	2022年度
法律違反の有無	無	無	無
訴訟の有無	無	無	無

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

項目	評価指示
環境経営方針	最高責任者変更により改定
環境経営目標	継続
環境経営計画	横浜部品部解体による全社的な環境への影響を調査する事
実施体制	継続
エネルギー削減 チーム	エアコンの省エネ配管の効果を確認する事 エア漏れの改善を一層進める事
廃棄物削減チーム	パレットの再利用を継続して取り組む事 パレットの廃棄量を減らせる輸送方法を検討する事
水削減チーム	上水の使用量が勤務人数と相関性があるか確認する事 遮熱シートによる涼霧ファンの使用状況を確認する事
製品対応チーム	複数部品を一体化できる部品がないか設計段階で検討する事 上記による溶接レスの環境への影響を調査する事
営業部門チーム	サーキュレーターの導入を検討する事 北海道支店でのハイブリッド車の導入を検討する事
部品部門チーム	移転時に発生する資材で再利用可能なものを出来るだけ再利用に努める事